

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2016年03月19日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.49

＜新入社員を迎えるにあたって・・・＞

4月は、新入社員を迎える季節です。皆さんの塾にも、新人が入ってくる場所もあるのではないのでしょうか。私どもの顧問先にも、新卒が入ってくる場所があります。今回は、そんな新入社員や新人の講師に向けて、書いてみたいと思います。

一人前の塾人になるために、一番重要なことは、生徒に対して情熱を持っていることです。「生徒に対して情熱がない人が、塾業界に入ってくるわけない！」と思うかもしれませんが、それが、どうして・・・。

私から見ると大半の若者に、その情熱が見えないのです。私の目が曇っているのか、私の情熱という概念が違っているのか、そう感じる人が多いのです。

そこで、まずは、私の考える情熱について書いておきます。塾人に求められる情熱とは、目の前の生徒の態度変容に全面的に関与しようという意識のことです。目の前にいる生徒に強制力を行使してでも、少しでも良い方向へ変えていこうという意識があるかないかということです。たとえ、生徒に今は嫌われても、いつかはこの生徒も分かってくれるはずだと信じて、「生徒にとって必要だと思うこと」を必死になってやるという気持ちが情熱です。

生徒のあり方に全面的に参加していく態度といっても良いと思います。こういう態度を情熱だと私は思っているのです。損得抜きの状態ということ（昭和的な定義で、平成の現代では無理な注文かも知れませんが・・・）。

次に、塾人として重要な要素は、コミュニケーションに関することです。基本は、明元素（明るい・元気・素直）。そして次に、相手の気持ちを理解できる能力＝自己理解を通しての、他者類推能力を持つということです。

この能力は、教え心に通じるものです。どう話せば、相手に上手く通じるのかといつも考えて、授業やコミュニケーションを行なうと、この他者類推能力は、向上していくはずで

そして、最後に、重要な要素は、自己研鑽をする意欲と姿勢です。ぜひ、色々と勉強をしてほしいと思います。少なくとも年間50冊を目標に、本を読もうと努力してください。教育の本、心理学の本、ビジネス書、小説、それも、自分があまり読んでこなかった本を選んで読んでください。そして、1週間に一回は、書店に行って、どんな本があるのか、どんな本が今流行っているのか、本の背表紙だけでも見ながら、本から見える社会の変化を感じるようにしてください。

本に対する自己投資（＝自己研鑽）額の目安をお伝えすると、1ヶ月に20代前半の社会人で月に1万円、後半で2万円。30代で3万円。40代で4万円ぐらいは本を買って読むようにしてほしい

ものです。

「そんな金額の投資は無理だ！」という人は、ブックオフで探してみ、定価の合計を目安にしてみたらどうでしょうか。是非、情熱をもって、自分自身の成長に投資してください。きっと、将来大きな財産になるはずで

最後に、新卒の皆さんにいつも私が必ず伝えていることを書いて終わりにしたいと思います。

まずは「ラクダ」になること。「ラクダ」になるとは、他人の価値観を背負って、他人のために、歩みにくい道を歩いていくということです。いわゆる修行時代は、自分を一步下がらせて、塾や会社の価値観で仕事をする。それを約3年我慢して行ってみてください。

そして、次は、「ライオン」の時代です。とうとう、自分のやり方で古いやり方を壊しながら、自分流の仕事をしるということです。自分のやり方に拘って仕事をする時期が、成長期です。この成長期は、何年続くかはわかりません。

そして、最後に、「子ども」の時代がやってきます。状況を楽しみ、周りを楽しくさせ、そして、何にも拘らない柔軟な態度で仕事をするということです。こういうプロセスで人間は成長していくのです。

以上が、ニーチェの精神の三様態から私が掴んだ考え方です。

最後に若い諸君へ。

志を高く持ってほしい。自分が選んだ教育業界は、未来に続いている道を作る仕事なのです。安易な妥協は、しないこと。妥協のない人生はありませんが、安易に妥協する人生ほど面白くないものはありません。我慢をしながら、自分の道を一步一步進んでください。

【編集後記】

弊社MBAの2016年度のセミナーの開催の詳細が決定いたしました。そして、東京、大阪、福岡で行って参りました学習塾経営者、管理者を対象として、様々なノウハウを1日でお伝えして参りました従来型の「MBA学習塾経営セミナー」は、今年度をもって最後となります。第1回は、「夏期講習で飛躍する！設計・集客・教務」です。是非、春の集客に続けて、夏の集客でも成功してください。東京開催4月17日(日)、大阪開催4月24日(日)、福岡開催5月15日(日)です。お見逃しなく！お問い合わせは以下の連絡先へお願いします。

TEL:045-651-6922 担当:野口
mail:mailadm@management-brain.co.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.13-1

3月も下旬になりました。

受験日程もすべて終わってまもなく新年度の開講ですが、新年度に入るとすぐに保護者会を実施する塾や塾報を発行する塾も多いのではないのでしょうか。

今回はできるならばそのさい、保護者の皆さんにお知らせしておいた方がよからうというデータがありますのでご紹介しましょう。

周知のように毎年4月、文科省の「全国学力・学習状況調査」が行われています。

2013年に行われた同調査を分析した研究(注①)によると、「保護者が子どもに対して高い学歴を期待している家庭ほど子どもの成績がよい」という興味深い結果が出ています。

以下の2つのデータをご覧くださいませ。「子どもへの学歴期待」と小6生の「国語A・B、算数A・Bの平均正答率合計(満点は400%)」との関係、中3生の「国語A・B、数学A・Bの平均正答率合計(満点は400%)」との関係を示すものです。

《小6生》

【学歴期待】	【平均正答率の合計】
中学校まで	178.4%
高校まで	199.8%
専門学校・各種学校まで	222.2%
短大・高専まで	244.4%
大学まで	268.5%
大学院まで	300.1%

《中3生》

【学歴期待】	【平均正答率の合計】
中学校まで	244.3%
高校まで	191.4%
専門学校・各種学校まで	216.9%
短大・高専まで	246.9%
大学まで	279.8%
大学院まで	315.8%

「中学校まで」あるいは「大学院まで」の家庭はごく少数ですので除外するとして、「高校まで」と「大学まで」の開きにご注目いただきませう。

小6生で68.7ポイント、中3生で88.4ポイントもの差が出てしまっています。1科あたりにして、小6生が17.2ポイント、

中3生が22.1ポイント。ものすごい差といってよいでしょう。

理由はともかくこういう結果が出ているのですから、子どもの成績を上げたいと思って通塾させている保護者の皆さんには、「子どもには大学まで行ってほしい」「なにがなんでも行かせる」という期待や覚悟を持ってもらうことが肝要なのではないのでしょうか。

話は少々横道にそれますが、われわれ塾の世界の人間はたいていが大卒です。大卒者に囲まれて毎日過ごしていますから、保護者の皆さんもまたそのほとんどが大卒だと勘違いする傾向があるようです。

が、しかし、保護者の皆さんを含めた外の世界においては、大卒者は多数派ではありません。

正確に申し上げますと2015年時点で、中学生の親世代に相当する、全国の35歳～49歳人口に占める大卒・大学院修了者の割合は、男性が30.0%、女性が16.8%、男女合わせて23.5%。4分の1以下に過ぎません(注②)。

高い学歴を持つ保護者は自分の子どもにも高い学歴を期待するけれども、そうでない保護者はそれほど期待しないというのは、よく知られていることです。

たとえばベネッセの調査によると、中卒ないし高卒の母親のうち、子ども(男の子)に大学卒・大学院修了までを期待するのは55.2%。一方、大卒ないし大学院修了の母親の場合は94.2%(注③)。自分の教育体験が子どもへの進学期待に反映しているということなのでしょう。

結論を言ってしまうえば、保護者の多くは必ずしも大卒者ではなく、したがってわれわれが考えているほど子どもの「大学進学」について意識していないことになります。

ならば、塾生の成績を上げるためにわれわれは、保護者に対して積極的に、「お子さんを大学に！」と訴える必要があります。

保護者会や個人面談、塾報など、あらゆる機会を利用して呼び掛けていただければ幸いです。

最後に、参考までに、都道府県別の35～49歳人口に占める大卒・大学院修了者の割合を記しておきます(注②)。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.13-2

	【総合】	【男性】	【女性】
全国	23.5	30.0	16.8
北海道	16.0	22.7	9.4
青森県	14.4	18.8	10.1
岩手県	15.4	19.7	11.1
宮城県	19.7	25.4	13.8
秋田県	14.6	19.2	10.0
山形県	16.3	21.0	11.5
福島県	15.2	20.1	10.3
茨城県	19.8	25.2	14.0
栃木県	19.3	25.5	12.6
群馬県	19.1	25.4	12.4
埼玉県	23.8	30.8	16.1
千葉県	26.2	34.1	17.8
東京都	29.3	34.2	24.2
神奈川県	29.5	36.8	21.6
新潟県	16.9	22.4	11.1
富山県	23.3	29.4	16.9
石川県	22.4	29.7	15.0
福井県	22.6	30.1	15.0
山梨県	22.1	29.3	14.6
長野県	20.2	27.1	13.0
岐阜県	21.3	28.2	14.2
静岡県	21.8	28.9	14.3
愛知県	25.2	32.5	17.3
三重県	20.9	26.8	14.7
滋賀県	24.5	32.0	16.9
京都府	26.6	33.0	20.4
大阪府	22.8	29.5	16.2
兵庫県	27.2	34.2	20.5
奈良県	29.3	38.3	21.0

	【総合】	【男性】	【女性】
和歌山県	18.9	24.7	13.5
鳥取県	19.1	24.2	14.0
島根県	19.6	24.9	14.2
岡山県	24.2	29.5	19.0
広島県	25.5	33.0	18.0
山口県	20.2	27.0	13.5
徳島県	22.6	26.4	18.9
香川県	25.0	31.0	19.1
愛媛県	23.5	28.9	18.2
高知県	16.9	20.1	13.9
福岡県	22.8	30.6	15.5
佐賀県	18.6	24.8	12.6
長崎県	18.0	24.4	12.0
熊本県	19.6	26.2	13.3
大分県	19.4	26.2	12.7
宮崎県	16.8	23.0	11.0
鹿児島県	17.5	25.2	10.3
沖縄県	16.9	20.6	13.3

※数値は%

注① 「平成25年度 全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」お茶の水大学/2014

注② 「平成22年国勢調査」

注③ 「幼児期から小学校1年生の家庭教育調査報告書」
ベネッセ教育総合研究所/2012